

産総研と地域企業

産業振興で連携

ハイレゾ対応スピーカー実現

オオアサ電子

開発提案型

オオアサ電子（広島県北広島町）は、設立以来「人間が主役」との考えに基づき事業を進めてきた。リーマン

40キロヘルツ的

・ショック後、受託専門企業からの脱却を目前にしたが、30年間事業に真剣に取り組んで来たことこそ「固有技術」であると感じた

新素材が生み出す高域再生性能

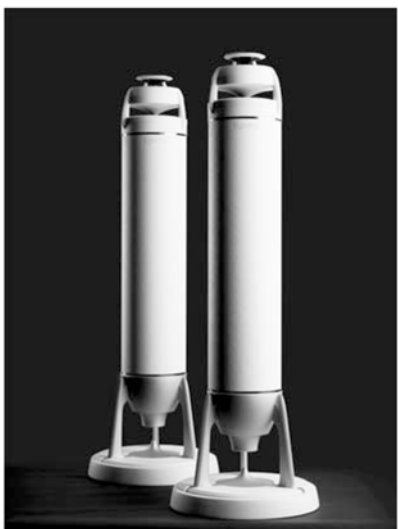
音源が一般化してきた。これは、スタジオで録音したマスターの情報量により近い情報量の音源で、CDよりも

クレイ主成分

の音源で、CDよりも情報量が多いので、きこえが増す。また、「耳

ハイレゾ対応スピーカーユニットの開発

は、高質な高域再生性を得るため蛇腹状のフィルムを伸縮させて音を出すハイルドライ



バー方式を採用した。そんな中、産総研との共同研究で

「ポリマー・クレイ・コンポジット」と

「ポリマー・クレイ・コンポジット」と

の根幹となる振動板への加工方法などの問題からそのままでは使用

できる状態ではなかったが、素材製造会社の住友精化も加わって、

ハイレゾ対応無指向性スピーカーTS100 OF

一言メッセージ

産総研東北センター 所長代理 南條 弘

音楽とは耳で聞くものだと思ってきたが、オオアサ電子のスピーカー音は耳からはもちろん、耳には聞こえない超高音域までを体全体で感じ取れる音で、広い音空間を楽しめる。是非一度体感してほしい。

度重なる打ち合わせや販にも力を入れていき

試行錯誤を繰り返して

音響製品に使用できる

19年後半には、新製

耐候・耐熱・耐久性の品発表の予定。この製

振動板を作り上げ、こ

品には、産学官連携に

れを使ったハイレゾ対

より、素材はもとよ

応スピーカーを製品化

り、加工方法、製造方

法にも新規性を持たせ

の展示会にも積極的に

て、過去に例を見ない

参加して、完成品スピ

ーカージャンキー、い。

（オオアサ電子社長

ポリマー・クレイ・コ

ンポジットを用いたス

ピーカーユニットの拡

（木曜日掲載）